

よかまち、きやんせ



自然豊かな薩摩川内へ

定住のススメ…

薩摩川内市に暮らす

Iターン



満園淑浩さん(41歳)は福岡県北九州市から入来町にIターンで転入

Iターンとは、生まれ育った故郷以外の地域に居住することです。その動機や見ず知らずの土地での生活などの話を伺いました。

淑浩さん「高校生のころから、自然の中で仕事をしたいという思いがずっとありました。ある日の新聞に、「田舎に住みませんか」の文章が目に入り、内容を見ると、薩摩川内市で行っている無料体験ツアーのことが書いてあり、この事業に参加したいと思いました」

●参加したのは「余暇交流体験モデル事業」。内容は、施設見学や体験活動、観光などです。
淑浩さん「内容は観光などでしたが、農業もできるのではと考えながら参加しました。ここに決めたのは、環境の良さに参加した事業でお世話していた皆さんの親切な対応が良かった

し、自然がいつでも農業をやるには良い場所と思ったからです」

●それからは本市に10日ごとに足しげく通った満園さん。ご家族に思いを語りました。

淑浩さん「自分の夢をかなえるためには家族の同意が必要です。3人の子どものことや妻の仕事など課題も多く、最初は反対されました。しかし、やりたいことをやるのなら今だという思いを語るうちに理解してくれ、来年は妻と子どもも入来町に来て住んでくれる予定です」

●そして現在、市農業公社の研修事業を利用し、就農に向けて修行中です。

淑浩さん「キンカン農家を目指し勉強中です。研修期間は1年しかないのですが、来年の就農に向けて必死です。経験はありませんが、やる気は何十倍もあります。でも今のところ就農するにも土地がありません。そんな不安はありますが、それよりも描いている夢が大きいのので頑張っていくことができます」

●最後に、本市に住んでみての感想をお聞かせください。
淑浩さん「北九州市に住んでいるころは薩摩川内市について、全くといっていいほど知識がありませんでしたが、

SATSUMASENDAI CITY それぞれの生き方

住んでみると自然がいつでも大満足です。でも、公共交通機関がない、物価が高いと感じます。あと、充実した公共施設マップがあればいいと思いますね」

◆夢に向かってまい進している満園さんの顔は、晴れ晴れと輝いて見えました。しかし、就農するためには土地のことなど不安もありました。何とかならないかと考えながら取材先を後にしました。

Uターン



福山義和さん(59歳)・トキ子さん(61歳)ご夫婦は、東京都町田市から高江町にUターンで転入

Uターンとは、地方で生まれ育った人が、一度都会で居住した後に、再び自分の生まれ育った故郷に戻って居住することです。さあ、お話を伺ってみましょう。

義和さん「私の母親が特別養護老人ホームに入所していましたが、法改正のためその施設から退所しなければいけ

ないという連絡がありました。引き取って母親の面倒を見るため、神奈川県で15年間続けてきた焼き鳥店や建て替えて5年しか住んでいない家を譲るなど、手続きも慌ただしく済ませ帰ってきました。しかし、帰って1週間もしないうちにその施設にやはり入所できることになり、いろいろなものを処分し、急ぎよ帰った事などを思うと何ともいえない気持ちになりましたが、よく考えると「鹿児島に帰る流れ」がそのときはあったと思います」

●トキさんは生まれも育ちも東京ですが、本市に住んでみて気付いたことを教えてください。

トキ子さん「地域にあるお墓の花が枯れたのを見たことがあります。先祖を思う気持ちが強いと感じます。星や夕日の美しさ、鳥の羽ばたく音が聞こえるなど、東京では見たことも聞いたこともない自然に感動しています。盆などよく帰ってきていましたが、自然の豊かさなど住んでみないと気付かないことが多いですね。それから、川内川の水量に驚いています。こんな川は見たことがありません」

義和さん「転入してしばらくはあちこちの物産館巡りをしましたが新鮮でおいしいものが多いですね。焼き鳥店をこちらでもやっていますが、素晴らしい食材が多いです。それから、観光についてですが、いまひとつのような気がしますが、イベントもごんまりではなく、思い切ったやるべきです。また、